

# やまびこ

第 24 号 平成 29 年 11 月

編集・発行 掛川地域力向上委員会

Tel・Fax 0561-48-6165

E-mail:kakegawatiikiriyoku140510@gctv.ne.jp

## 楽しかった!! 掛川スポーツフェスタ

9月30日（土）に掛川スポーツフェスタが行われました。朝は曇っていましたが、昼から晴れてとても良いフェスタ日和になりました。保護者の方、地域の方もいろんな競技に参加され、日頃の運動不足を解消し、翌日の体の痛みも忘れそうになるほどの楽しいフェスタでした。小学生の一生懸命さに最高に癒された一日でした。



# 掛川小学校小規模特認校化に向けて

9月21日（金）、掛川小学校の小規模特認校化に向けての瀬戸市教育委員会による説明会が掛川公民館において行われました。

小規模特認校とは各学年が単学級以下の小規模で特色ある教育環境を有する小学校として、瀬戸市教育委員会が定める学校です。隣接学校選択制が平成31年度末で廃止されることにともない、校区外通学制度の見直しをする中で、平成32年度4月新入学児童から掛川小学校を全市から通学可能な小規模特認校化するものです。現在ではすでに瀬戸市立品野台小学校が小規模特認校となっています。

出席したのは自治会、PTA、地域力向上委員会などの代表者その他の関係者。とくに保護者や自治会に対しては後日、個別の説明がなされるとのことでした。

小規模特認校制度の概要は以下の通りです。

**保護者等への周知** 市教委は校区外通学制度について、市内保護者に対して適切な情報提供を行うとともに小規模特認校として設定した小学校の特色等について紹介します。また学校は公開日を設定し、制度利用を希望する者が実際に学校を見学することができる機会を設けます。

**手続き** 児童の保護者が市教委に申請書を提出します。市教委では申請の内容を精査し、小規模特認校への修学を決定して申請者に文書で通知します。申請は小学1年生入学時のみ受け付けます。

**学籍** 小規模特認校に入学した児童は住所の異動がない限りは卒業まで在籍します。

**中学校進学時** 小規模特認校の卒業後は居住する通学区域に応じた中学校に進学します。



## 掛川地域の小冊子づくりにご協力を！

掛川のイラストマップの完成から7か月がたち、各方面から好評を得ています。“素晴らしい絵のさらなる活用を”と制作した絵ハガキは、現在2,200枚余りを希望者に頒布しました。

今回第3弾として、描かれた地域のイラスト画にまつわる歴史や解説、そして地元の人達による俳句・短歌やエッセイなどを水野金光さんの絵に添えて、掛川地域の小冊子に仕上げようと考えています。

このような冊子作りに興味のある方に集まっていただき、ワイワイ・ガヤガヤと楽しい



企画をスタートさせたいと思います。係りだけで作るのではなくて「面白いことは一人でも多くの人達と」との思いで、できるだけ多くの人の意見をいただきたいと思います。

思い出に残る冊子にするためにお知恵をお貸しください。皆さんの参加をお待ちしています。（10月にも同様のお知らせが全戸配布されています。）

### 冊子づくりワークショップ

＜日時＞ 11月18日（土）  
午前10時～11時30分

＜場所＞ 掛川公民館

## コミュニティ交通運行協議会が開催されました



9月25日（月）、平成29年度コミュニティ交通下半田川線運行協議会の第1回会合が定光寺町町民会館にて行われました。

コミュニティバス下半田川線ではこの7月よりデマンドタクシー運行の社会実験が行われています。今回は利用者の意見聴取が中心でした。地域力向上委員会ではコミュニティグループで乗車体験をしたので、その感想も述べました。以下意見集約の結果です。

### ① 便利な点

- ・自宅から病院や商業施設等の行きたいところまで直接行くことができる。
- ・買い物した後、重い荷物があっても家の前まで運べる。状況によっては荷物をトランクに入れるなど運転手さんが手伝ってくれるのでありがたい。
- ・バスと違って決められた時間までバス停で待つ必要がない。

### ② 不便な点

- ・当日の予約ができないため、急に出かけたいと思ってもできない。当日も予約できるようにしてほしい。
- ・定員を超えていたため希望の便に乗れなかった。応援タクシーが1日1便あるが、午前か午後どちらかに限られる。
- ・予約する手間や予約後の時間決定を待たなければならない。とくに携帯を利用しない人は家で通知を待たなければならない。いずれにしても、待ち時間の行動が制約される。

これらの意見を踏まえ、10月からは次の点が改善され、運行がなされています。

- ① 当日も予約できるようになりました。利用当日は第3便以降の便で運行ダイヤの2時間前までに当日の予約受付が行われます。
- ② 午後にも1便、応援タクシーが運行されます。

改善されたデマンドタクシー運行のお知らせが各家庭に配布されていますので目を通してみてください。この社会実験は12月末でいったん終了し、1月からは元のコミバス運行に戻ります。

## 第2回ふるさと探訪ウォーキングが行われます

第2回ふるさと探訪ウォーキングを下記の日程で行います。皆さんこそってご参加ください。掛川公民館との共同開催です。申し込みは掛川公民館（☎48-6165）まで。

日 時 12月2日（土）午前9時～11時30分（少雨決行です。）  
集合場所 定光寺町東コミバス停留所広場（加藤俊男さん前）  
持ち物・服装 掛川マップ、水筒・ウォーキングのできる服装  
コース 定光寺町東島を 神明神社→山の神→地神様→庚申様→  
→掛川小学校創設の地→半ノ木 の順に歩きます。



## 下半田川総有地と 曙光礼讃の碑

下半田川町民会館の前に「曙光礼讃」と刻まれた大きな石碑があります。これは、下半田川山林を尾張藩士から取得した祖先の顕彰碑で、町民会館の完成を期して昭和63年に建立されました。建碑の副委員長を務めた富田鑛氏が記した「顕彰碑建立余話」などを参考に、顕彰碑建立の経緯やその意義を紹介します。



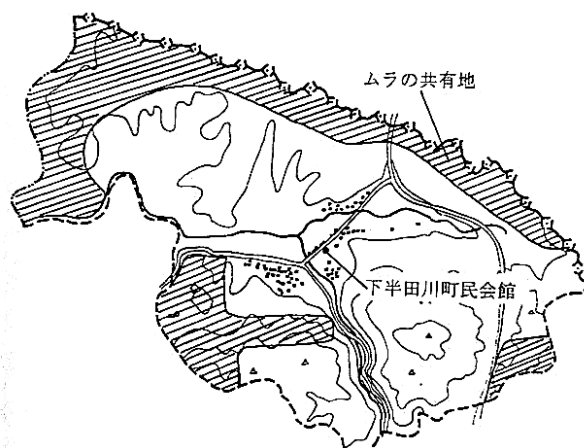
江戸時代、下半田川村は定光寺領として飢饉においても、生活が保障されました。明治維新後、山林は国有地になり、さらに政府から尾張藩士 43 名へ払い下げられました。藩士は生活のために、土地を金に換えたい意向がありました。そこで、村の総力（約 90 戸、代理人 21 人）をあげて、下半田川の山林すべてを、藩士から 1,922 円 15 銭 3 厘で買受けました。当時の 1 円は現在の約 20,000 円に相当します。総額約 4,000 万円のお金を工面するために村人のある者は嫁入り衣装を質入れし、またある者は布団や鍋・釜まで質入れをして冬には蚊帳にくるまって寝たという話が伝わっています。この苦労が碑文に「臥薪嘗胆」と表現されています。ある目的達成のために、薪の上に寝て苦い胆をなめるような苦

労に耐えることを意味します。

山林の一部は私有地として分配し、村の境界周辺は共有地としました。石油燃料が利用される近年まで、山は薪の供給地として生活を支えてきました。

この共有地は、その後、掛川小学校の用地として利用されました。さらに先人たちがこの共有地に採石工場などを誘致したことによって、賃地収入が得られるようになりました。町民会館の用地買収や「ふれあいホール」の建設は、この賃地料や、共有地の公共事業への売却代によって賄われました。このように町民は共有地の恩恵を受けています。さらにこれが住民の共同意識を高め、町民の結束を強めています。

現在この資産は下半田川自治会が管理をして法律的に総有地と呼んでいます。



下半田川自治会の主な共有地（現在、総有地と呼称）

住民全員がこの総有地の所在を知り、次世代へ引き継いでいけるように、毎年 1 月に総有地と私有地の境界確認を全戸、総出で行っています。かつては笹や下草などを肥料として利用していたので、利用者の場所の割り振りも行っていました。この行事を、今でも「笹ひき」と呼んでいます。

（富田幹夫）

## 定光寺町に伝わる昔話 おしょうさんに叱られた龍

読者の皆さんからのご意見や要望の中に、地域に伝わる昔ばなしを紹介してほしいとの声がありました。前回の下半田川町の「妻の神」に続いて、今回は定光寺町の昔話をとりあげました。(瀬戸市小中学校社会科研究会編「せとの昔話」を参考にしました。)

定光寺の徳川義直公廟所の入り口のところに龍門と呼ばれる門があり、その門の天井に狩野元信が描いたと伝えられる龍の絵があります。昔、天井におさまっているはずの龍は人が寝静まると門から100mほど坂を下ったところにある池に水を飲みに行ったということです。ところがそのうちに「どうも近頃うちの田畑が荒らされて困ってるが、おまあはんとはどおやな。」「うん、ほう



定光寺茶所の『襖絵』から

いわれやあおれんともきんのうナスビがぎょうさんちぎれとったがや。」という村人の声が和尚さんの耳に入りました。和尚さんはきっとあの龍の仕業に違いはない、今のうちに何とか手を打たねばならないと考えました。

そしてあくる日、龍門の龍に「やいおまえ、そもそも源敬公の御霊を守る役目にありながら、役目を怠ったばかりか村人の田畑を荒らすとはもってのほか、覚悟せい。」という懐に隠し持っていたのみを龍の目に打ち込んで天井から降りられないようにしました。すると龍は素直に「はい、和尚様、私が悪うございました。これからは一歩たりともここを離れず源敬公の御霊をお守りしますからどうぞお許してください。」と、大粒の涙を流しながら謝ったということです。それ以来、龍が龍門の天井を離れたという話は聞かれなくなりました。

## ふるさと自然だより ツチグリ

夏から秋、林内の道端や土の崖などで見られる中型のキノコで、ツチガキ（土柿）とも呼ばれます。内部が白い幼菌は食用になり、東南アジアなどでは缶詰にもされるといいますが、日本ではあまり食べません。東北地方の南部（特に福島県など）ではマメダンゴやママダンゴといって、季節の味として味噌汁の具や、佃煮などにされ食卓へ上がることがあるそうです。成長するとヒトデのような形に外皮が開き、6～10に分かれてツチグリらしい特徴的な形になります。この時期に、膨らんだ部分を指で押すと先端の穴から焦げ茶色の煙が吹き出ます。ツチグリの胞子です。

掛川小学校外階段の北側の土手では毎年10月～11月に見られるので探してみてください。12月ころまで残っていることがあります。



ツチグリの内部

## 会員の声 「一枚の絵」

定光寺町 水野ひろみ

水野ひろみさんは、名古屋市から定光寺町に引っ越して来て7年になるそうです。掛川小学校 PTA、かけがわっ子ひろばなど地域のことに関心を持って活動しています。

かけがわっ子ひろばに携わるようになって3年目。

日々、地域の方、保護者の方、たくさんの方に支えられて子どもたちと楽しく過ごさせていただいており、感謝の一言に尽きます。ありがとうございます。私もかけがわっ子ひろばを通してたくさんの出会い、チャレンジをさせていただいています。

その中でもこの夏、数々のチャレンジの中の一つにイラストレーターの華鼓先生をお迎えして一枚の大きな絵を制作するという取り組みがありました。一人一枚の画用紙を担当し、36名で描いた一枚一枚をひとつにつなぐ大きな絵です。

始めに先生が下書きをした36枚を全員で眺め、イメージを統一します。テーマは「みんなの夢天まで届け、夕刻の大きな樹」。空は夕焼けのオレンジ色に決めました。それぞれに分かれて画用紙に色をぬっていきます。

しばらくすると画用紙の裏に書いてあった番号で自分の上下、左右の友達を呼び、画用紙のつなぎ合わせの色の相談、

確認をして作業を進める子、一人で進める子、いろいろです。

この「36枚＝1枚」の絵は、まるで今のかけがわっ子ひろばのようにも見えます。一枚でも足りないと絵は完成しません。一人一人が大切です。36枚が合わさるととても大きく輝いていて感動してしまいました。みんなで讃えあいました。失敗してもいい、諦めない気持ち、協力しあうこと、助け合うこと、優しい気持ちと、たくさんのことを学びました。

このチャレンジが子どもたちの今後に役立つことを願い、私もこれからも子どもたちと一緒にチャレンジしていこうと思っています。この作品は公民館まつりで展示します。ぜひ、たくさん方にご覧いただけたら嬉しく思います。



でき上がった作品を囲んで

### 引き取ります/差し上げます

事務局で預かっているいらなくなったインクカートリッジは現在、以下5種類です。

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| ① CANON 互換品 BCL-3e(Y)   | ④ EPSON 純正品 Colorio 21 |
| ② CANON 純正品 BCL-3e(BK)  | ⑤ EPSON 純正品 ICBK70L    |
| ③ CANON 純正品 BCL-320/321 |                        |

※ CANON 純正品 PIXUS 7e/9 (BK, Cのみ) は貰い手があったので差し上げました。引き取ってほしい方、貰いたい方は随時事務局までお申し出ください。

